

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.657

- ★「敬老の日 読書のすすめ」リーフレット(2頁)
- ★「第76回 読書週間」開催についてのご案内(3頁)



「敬老の日読書のすすめ」によせて
60年の変化を共有する
世代間のコミュニケーションツールに
『60年前と現在の世界地図くらべて楽しむ地図帳』

株式会社 山川出版社
編集部
ほんだ ひでおみ
本多秀臣

本書の特徴は、老舗の教科書発行会社である二宮書店から60年前(1962年)に発行された貴重な地図帳と、現行版を見くらべながら、この60年間に起きた世界の変化(と無変化)を体感できる点にあります。

とで、これらは地域ごとの解説パートでふれています。このような世界の変化を知ること、現在起きている政治・社会問題を理解する前提として欠かせないものですが、報道などで地名が出てきても、具体的な場所まではなかなか想像しづらいのではな

いでしょうか。しかし、2時点の地図帳を眺めてくらべることで、どこにあるかという位置だけでなく、周辺地域も含めどのような変化があった場所なのかまで一目でわかり、現代世界への理解がより深まるはずです。

例えば、2時点の地図でもっとも大きい変化があったのはロシア周辺です。ウラル山脈の東方でほとんど変化がない一方で、西方ではソ連崩壊以降、多くの国家が誕生しました。ロシアによるウクライナ侵攻がなぜ起きたのか、この地域の地図を見くらべることで、なにかわかるかもしれません。

1960年代以降、アフリカや南米、アジア地域を中心に旧植民地からの独立が相次ぎました。また、ヨーロッパでは東西冷戦の終結にともなうドイツ統一、ソ連崩壊、ユーゴスラビア解体の影響で、国名・領土の変更が起こり、世界地図が大きく塗り変わりました。

例えば、2時点の地図でもっとも大きい変化があったのはロシア周辺です。ウラル山脈の東方でほとんど変化がない一方で、西方ではソ連崩壊以降、多くの国家が誕生しました。ロシアによるウクライナ侵攻がなぜ起きたのか、この地域の地図を見くらべることで、なにかわかるかもしれません。

そして地図をさらに深く理解できるように、地域ごとの変化を解説してくださったのが、著者の関真興さんです。1944年の生まれで、60年代を10代後半く20代前半の多感な時期として過ごされ、この60年の変化を肌身で感じてこられた世代です。かつ、世界史の予備校講師として長年、生徒さんに近代史をどのように伝えるか実践されてきたご経験を、存分に発揮していただきました。一方の私は70年代生まれで、60年代のことはリアルタイムではあり

ません。しかし、これまでと一緒に何冊か本を制作してきた合間に、自分が経験していない時代の現代史の話をお聞きしたり、逆に現在起きている問題の感想を求められたりと、おたがいの世代に興味をもちながらの会話をさせていただくことがたびたびありました。本書の編集を通じて、歴史を知ることが、世代間の溝を埋め、理解しあうために欠かせないことだと、あらためて感じています。

また地図帳は、学生時代に合う1冊だけという方が多いと思いますが、世界の変化にあわせて毎年自身が変わっています。この機会に、新しい地図帳を購入し、ご自身の思い出を重ねながら世界の変化をくらべていただくというのも、新たな発見があつて楽しいのではないのでしょうか。

また地図帳は、学生時代に合う1冊だけという方が多いと思いますが、世界の変化にあわせて毎年自身が変わっています。この機会に、新しい地図帳を購入し、ご自身の思い出を重ねながら世界の変化をくらべていただくというのも、新たな発見があつて楽しいのではないのでしょうか。

また地図帳は、学生時代に合う1冊だけという方が多いと思いますが、世界の変化にあわせて毎年自身が変わっています。この機会に、新しい地図帳を購入し、ご自身の思い出を重ねながら世界の変化をくらべていただくというのも、新たな発見があつて楽しいのではないのでしょうか。

また地図帳は、学生時代に合う1冊だけという方が多いと思いますが、世界の変化にあわせて毎年自身が変わっています。この機会に、新しい地図帳を購入し、ご自身の思い出を重ねながら世界の変化をくらべていただくというのも、新たな発見があつて楽しいのではないのでしょうか。

もちろん、地図には現れない交通網のグローバル化、数多くの戦争・紛争なども変化を知ろうとしたいへん重要なこ

もちろん、地図には現れない交通網のグローバル化、数多くの戦争・紛争なども変化を知ろうとしたいへん重要なこ

もちろん、地図には現れない交通網のグローバル化、数多くの戦争・紛争なども変化を知ろうとしたいへん重要なこ

もちろん、地図には現れない交通網のグローバル化、数多くの戦争・紛争なども変化を知ろうとしたいへん重要なこ



2022 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2022 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日(高齢者)にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は40の読進協から、81点の書目の推薦をいただきました。もともと多くの推薦があったのは、佐藤愛子の『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』で、6つの読進協から推薦がありました。ついで、信友直子の『ぼけますから、よろしく願います。おかえり、お母さん』、瀬戸内寂聴の『その日まで』、池澤夏樹(編)・寄藤文平(絵)の『わたしのなつかしい一冊』が4つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。この推薦図書を掲載したリーフ



今年は落ち着いたグリーンです

レットは、14万部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータもあります。

リーフレットは多少の準備を用意しておりますが、近年はコロナ禍で敬老会を中止した自治体もあり、記念品とともに対象者へ贈りたいと、多くのご希望をいただいております。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。

☎03-5244-5270
 FAX 03-5244-5271
 e-mail info@dokusyo.or.jp
 ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp/>

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
佐藤 愛子	九十八歳。戦いやまず日は暮れず	一三二〇円	小学館
やなせたかし	ボクと、正義と、アンパンマン	一六二八円	PHP研究所
萩本 欽一	80歳、何かあきらめ、何もあきらめない	一五四〇円	主婦と生活社
道場六三郎	91歳、一歩一歩、また一歩。必ず頂上に辿り着く	一五四〇円	KADOKAWA
大村 崑	崑ちゃん90歳。今が一番、健康です!	一五四〇円	青春出版社
エディ・ジエイク (著)金原人(訳)	世界でいちばん幸せな男	一五六二円	河出書房新社
瀬戸内寂聴	その日まで	一四三〇円	講談社
石井ふく子	家族のようなあなたへ 橋田壽賀子さんと歩んだ60年	一四八五円	世界文化社
戸田奈津子	枯れてこそ美しく	一四三〇円	集英社
村瀬実恵子	幸田文生きかた指南	一九八〇円	平凡社
幸田 文(著) 青木奈緒(編)	ちようどいい孤独	一五四〇円	かんき出版
鎌田 實	俳句と人間	九四六円	岩波書店
長谷川 權	ぼけますから、よろしく願います。おかえり、お母さん	一四五〇円	新潮社
信友 直子	老いを愛づる	九〇二円	中央公論新社
中村 桂子	老後とピアノ	一六五〇円	ポプラ社
稲垣えみ子	60代から心と体がラクになる生き方	八二五円	朝日新聞出版
和田 秀樹	あと20年!おだやかに元気に80歳に向かう方法	一五四〇円	明日香出版社
西崎 隆之	高齢者を身近な危険から守る本	一一二〇円	池田書店
森道臣(監)・平松類(監)三平海(監) 関(眞典(編者) 二宮書店(協力)	わたしのなつかしい一冊	一九八〇円	山川出版社
朝井まかて	ボタニカ	一九八〇円	祥伝社
池澤夏樹(編)	旅の絵本X	一八七〇円	毎日新聞出版
寄藤文平(絵)	すぎなものみつつな	一七六〇円	福音館書店
安野 光雅	嫌われた監督 落合博満は中日をどう変えたのか	二〇九〇円	化学同人
鈴木 忠平		二〇九〇円	文藝春秋



2022・第76回 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりますよう、お願い申し上げます。

今年の標語は『この一冊に、ありがとう』です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

新型コロナウイルスが収束しないなか、社会の分断と対立が進行しています。声の大きさや物理的な力を頼みに、ことばをつくさず、他者との関わりをいきなり断ち切る場面を見ることが増えました。

このようなときこそ、「読書週間」制定時の「平和な文化国家を創ろう」の精神に基づき、本を読むことで知識と好奇心を満たし、この世界にはさまざまな人びとや多様な文化が存在することを理解し、おたがいの価値観を尊重しな

がら共に生きられる社会をつくりたいと願っております。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

- (1) 国民すべてに 読書をすすめる運動
- (2) とくに青少年に 読書をすすめる運動
- (3) 読書グループの結成促進

「秋・読書週間」に、ぜひ、一冊の本を が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や図書館で一冊の本を手にとり、そんな展覧や行事を期待しています。

- (1) 国民すべてに 読書をすすめる運動
- (2) とくに青少年に 読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」といわれてきました。近年は、受験戦争に加え、映像や電子メディアなどの発達で、ますます子どもたちの「読書」の時間がせぼめられています。しか

し、どんなメディアの時代でも、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

- (3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約1万2300あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2018年度 全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

- (4) 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公

共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2005年(平成17年)7月29日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と制定されています。「読書週間」とともに、「文字・活字文化の日」もおおいに広めていただきたいと存じます。

記

名称 2022・第76回

主催 公益社団法人 読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会

後援 文部科学省(申請中)

期間 10月27日(木)から11月9日(水)まで

標語 2022「この一冊に、ありがとう」

《行事内容》

- 「全国優良読書グループ表彰(第55回)」の実施
- 「野間読書推進賞(第52回)」贈呈式開催
- *感染症対策に配慮した形での開催・対応を検討しております
- ポスターおよび広報文書配布

●公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など

●その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各機関へお願いの行事内容》

*各地域の状況に応じた範囲でのご協力をお願い申し上げます

- 公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書雑誌展示会」「著者をかこむ会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施
- 道府県の読書推進運動協議会による道府県単位の「読書大会」などの開催
- 出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

「子どもの読書推進会議」2022年度第1回総会

コロナ下でもリアルな手ごたえ
再始動する読書推進活動

7月15日(金)、「子どもの読書推進会議」2022年度第1回総会が、東京都千代田区の出版クラブビルで開催され、2021年度の事業報告と収支決算書および2022年度の事業計画と収支予算書が説明・討議され承認された。

2021年度事業報告では、昨年5月3日～5日開催の「上野の森親子ブックフェスタ2021」(共催：日本児童図書出版協会／出版文化産業振興財団)は、緊急事態宣言発出のため、上野公園での謝恩ブックセールを中止。予定していた講演会のみ、出版クラブホールに場所を移して3日間計6回を無観客で開催・オンライン配信した経緯が説明された。

もうひとつの主要事業である絵本ワールドは、2021年度は4か所で開催予定だったが、新型コロナ流行のため、実際に開催されたのは新潟市、和歌山県有田川町2か所にとどまった。

2022年度の事業計画と収支予算書については、絵本ワールドは現状5件6か所で開催予定であ

ること、前年度と同額の予算を組んだことなどの説明があった。

また5月3日～5日、3年ぶりに上野公園で開催された「上野の森親子ブックフェスタ2022」は、キャッシュレス決済の導入など感染症対策を取ったこと、約2万6000人が来場し大盛況であったことなどが報告された。

最後に各参加団体から活動報告のあと、野間省伸代表が挨拶して閉会となった。

「2022年度 絵本ワールド 開催予定」

- ・絵本ワールドinこまつしま 9月18日(日)・19日(月)
- ・絵本ワールドinふくしま 9月24日(土)・25日(日)
- ・絵本ワールドinひょうご 10月8日(土)
- ・絵本ワールドin京葉(仮) 10月8日(土)・9日(日)(城西国際大学紀尾井町キャンパス)、11月5日(土)・6日(日)(東金キャンパス)
- ・絵本ワールドinいがた 11月27日(日)

(7月15日現在)

「第55回造本装幀コンクール」発表

可能性を追求
紙の本だからできること

「出版・デザイン・印刷・製本産業の向上発展」を目的とした「第55回 造本装幀コンクール」(主催：日本書籍出版協会／日本印刷産業連合会)の審査会が去る5月27日(金)、出版クラブビル(東京都千代田区)にて開催され、2021年発行の書籍167者37点の候補作の中から、21作品が入賞(ダブル受賞1作品)した。

今回の三賞は次のとおり。

- 文部科学大臣賞
『てんじつきさわるえほんさわったのしいレリーフブックさかな』(小学館)
- 装幀：村山純子
- 印刷：共同印刷／田中産業
- 製本：田中産業
- 経済産業大臣賞
『広告VOL.415 特集：流通』(博報堂)
- 装幀：上西祐理／加瀬透／牧寿次郎
- 印刷：藤原印刷
- 製本：篠原紙工
- 東京都知事賞
『TAPESTRY』(五味岳久)

発表

装幀：一野篤

印刷：オフセット：修美社

シルクスクリーン：東美企画

箔押し：川口箔押し印刷

製本：新日本製本

なお、文部科学大臣賞の『さかな』は、視覚に障がいのある読者が晴眼者といっしょに楽しめるユニークな図鑑で、日本印刷産業連合会会長賞とダブル受賞となっている。

また読書推進運動協議会が選定する「読書推進運動協議会賞」は、野田和浩さん装幀の『送別の餃子』(井

中国・都市と農村肖像画)が選定



文部科学大臣賞「さかな」凹凸をさわって楽しむことができる



読書推進運動協議会賞「送別の餃子」餃子を模した背巻はモチモチの感触

口淳子著／灯光舎)が受賞した。

本書は民族音楽学を研究する著者が、フィールドワークに入った中国北方での体験をまとめたエッセイであり、そのキーワードが現地によく食べられる「餃子」。そのイメージを再現するため、餃子の綴じた部分を象った表紙の背巻と帯にはベルベットPP加工が施され、生の餃子の皮を思わせる独特の手ざわりを生んでいる。一見シンプルながら、触感をも刺激する、異色の装幀である。

9月5日(月)には、日比谷図書文化館コンベンションホール(東京都千代田区)で、3年ぶりに対面での表彰式が予定されている。また、10月～11月に、出版クラブビル内クラブライブラリーで応募全作品が公開される。

NPO ブックスタート主催

「第1回 いっしょにえほん写真コンテスト2022」

～ 1冊の絵本は、1冊の絵本以上の物語を、
生み出してくれる。～

応募総数
356点!



「子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真」を、SNSで募集した、NPOブックスタート「第1回 いっしょにえほん写真コンテスト2022」の受賞作品25点が発表されました！
絵本のあたたかさ、子どもたち・大人たちの笑顔あふれる受賞作より、一部をご紹介します。



© スギヤマカナコ

◀大賞 aimama さん (大阪府)
大賞は、絵本作家スギヤマカナコさんがイラストにしてくれました! ➡



入選
Ryu64400 さん
(大阪府)



選者賞 (ふわはね賞)
あんたん さん
(東京都)



入選
sayaka さん
(福島県)



選者賞 (浜田桂子賞)
hii さん
(香川県)



選者賞 (NPOブックスタート賞)
佐藤 萌さん
(東京都)

〈第1回 いっしょにえほん写真コンテスト2022〉選者 *五十音順

- 浜田桂子さん (絵本作家・日本児童出版美術家連盟 理事長)
 - ふわはね さん (絵本講師・JPIC 読書アドバイザー)
 - 三輪 丈太郎 さん (子どもの本専門店メルヘンハウス店主)
 - 吉田 明世 さん (フリーアナウンサー・絵本専門士・保育士)
- NPOブックスタート 事務局

○主催者 NPOブックスタートより

どの作品にも、絵本や家族の記憶をめぐる「物語」がありました。だれかと「いっしょにえほん」を開くことで生まれる時間や絵本という媒体が持つ豊かさ、可能性をあらためて感じました。

本コンテストは来年度も開催予定です。当NPOでは今後も、各地のブックスタート事業で大切にされている「シェアボックス」や絵本がもつ可能性を、広く伝えていきたいと考えています。

- 写真の著作権は、受賞者(撮影者)に帰属します。
- 下記のサイトに、すべての入賞作品が掲載されています。
<https://www.bookstart.or.jp/>

優良読書グループの歩み (8)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

ネットワークメルヘン

代表者 横山由紀恵

茨城県小美玉市

〈推薦〉

茨城県読書推進運動協議会

小美玉市は2006年に近隣の3町村が合併してできました。

ネットワークメルヘンは、その旧美野里町時代の1992年に開かれた町民講座「お話し語り教室」の受講生により結成されました。はじめは、自主グループの活動で、おはなし会のポスターやチラシを自分たちで作り、学校や幼稚園などに配っていました。その後、図書館事業となり、広報誌ではおはなし会の案内をするようになりました。

ネットワークの名のとおり、当時は4つのグループがあり、地区の公民館などにわかれておはなし会を開催していました。それをまとめる名前が、「ネットワークメ

ルヘン」でした。しかし、会員の減少にともない、今ではひとつのグループとして活動しています。毎月のおはなし会のほかに、小学校、幼稚園、保育園からの依頼活動、市の子育て支援事業やブックスタートに協力をしておりま

す。1992年は、学校5日制が始まった年です。休みになった第2土曜日に3歳から小学校低学年を対象にして、おはなし会を開催していました。その後、完全週休2日制になると、子どもたちだけの参加が減って、親子連れが多くなりました。なかには、親子2代で来てくれる参加者もいるなど、長い間にはうれしい出会いがたくさんありました。

おはなし会の構成は、ストーリーテリング、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、カーテンシアターなどですが、そのときどきの子ども年齢にあわせて、親子体操や手遊びを取り入れて、30分ぐらいで終わるようにしています。

子どもたちは、静かに聞いてくれる子ばかりではありません。ズンズン前に出て、絵本の中に引き込まれていく子、動きまわる演者泣かせの子もいます。ときには、参加者「ゼロ」のときもあり、もう子どもたちのニーズにあわないのかと、落ち込むこともありました。でも、子どもたちの楽しそうな笑顔と、また来るよということばが、私たちをもう少しがんばろうという気持ちにさせてくれるのです。

今は新しい仲間も徐々に増えてきました。市内のおはなし会グループと朗読会を企画するなど、新しいことにチャレンジもしています。そして、これからも本の楽

しき、素晴らしい子どもたちに伝えていきたいと思えます。

大社図書館読書会

代表者 名村 三枝

島根県出雲市

〈推薦〉

島根県読書推進運動協議会

大社図書館読書会は、1994年5月に発足いたしました。福島裕子さん（元中学校国語教師・故人）が県立図書館の読書会に参加されて、このような読書会を大社でも始めたいという思いから生まれました。今は立派な図書館ができておりますが、発足した当時は大社には図書館はなく、コミュニティセンターの一室に図書室があつた時代でした。

組織としては、会長、副会長、会計、連絡係などあります。月に1回、1時間半程度の話しあいをしております。会のときにみんながそれぞれ読後感を言えるように、途中でお茶をして和やかな雰囲気の中で読書会を開いています。以前は、意見が出せないという人もおりましたが、今は意見の交換が活発になり、ときには時間をオーバーしてしまうこともある



子どもたちが笑顔になるおはなし会を



本への愛着、交流を深めあう読書会をこれからも

くらいです。

年に一度は研修旅行を企画し、津和野、尾道、津山、薬師寺、姫路城などに行きました。読書会ならではの場所をとくに旅行して、人間関係も深くなった気がします。また、あちこち図書館などの見学にも行きました。県立図書館、多伎町の図書館、大田市の図書館など、他所の図書館の様子を知ること、本への愛着を深めました。2年前までは、小学校での活動も行っていました。それぞれの学年にあった本を自分たちで選び、15分くらい読み聞かせをしていました。本を選ぶことにはとても気をつかいましたが、小学校から子どもたちの感謝の気持ちのこもつ

お手紙もいただいております。中学校では、読書クラブの生徒と合同読書会をいって、読書の楽しさを伝えることもありました。こうして読書会を30年近く続けてきました。しかし、以前は20人くらいのにぎやかな会でしたが、20年を過ぎたころからだんだんと会員も若い、病気やらお亡くなりになられる方も増えて、急に人数が減ってまいりました。男性も数人いらっしやったのですが、今は女性会員のみです。現在は外での活動は中止しており、会員募集はそれぞれの会員が声かけでおこなっています。

人形劇なつみ座
代表者 大塚 久子
長崎県西彼杵郡時津町
長崎県読書推進運動協議会
〈推薦〉

1990年度、時津図書館で人形劇の研修会が行われ、その発展



人形、小道具、台本……すべて手作りです！

的講座として公民館講座が開催され、町内の主婦らが受講しました。講座終了後、受講生15名で「人形劇なつみ座」を結成しました。名前は、地元の名産品（なつみだけ）からいただきました。子どもたちに、温かさや夢のある人形劇を見てもらいたいと活動を始めて、今年で31年になります。現在、団員は13名。毎週木曜日、時津町総合福祉センターに集まって、人形制作や練習に励み、年間15〜20回のボランティア公演を行っています。

結成当初からのメンバーもいますが、新メンバーも加わっています。手も口も足も動かしての活動は、団員の健康維持にも貢献しています。

公演先は時津町の図書館、保育所、幼稚園、小学校、児童館など。また、町主催の子育て支援事業などでも公演しています。依頼があれば、町外・県外での公演も受けています。

結成当初より「長崎県人形劇サークル協議会」に所属。また、九州各県の人形劇団で構成されている、「九州人形劇サークル協議会」にも加盟して、各県の人形劇団との交流を図り、研修などに参加し、スキルアップを目指しています。

なつみ座の人形・舞台・小道具は、すべて団員とその家族の手作りです。粉まみれになって発泡スチロールを削る作業や、洋服を縫ったり、背景を考えたり、ひとつの作品ができあがるまでに2年ほどかかりますが、みんなでアイデアを出しあう製作過程を楽しんでいます。

演目は、日本の昔話『ももたろう』『へつぱりよめつこ』『ねずみのすもう』、『グリム童話』『赤ずきんちゃん』『ブレーメンの音楽隊』など、20ほどあります。

なつみ座の人形劇は、物語の持つ力を信じて、できるかぎり原作に忠実に台本にします。その台本

を作る際には、時津図書館で関連する本を探してもらい、アドバイスをいただいています。

今、子どもたちを取り巻く環境は30年前とは変わったと思います。子どもたちの本質は変わることはありません。人形劇を見つめる瞳の輝き、身を乗り出して楽しむ子どもたちの様子は、活動を続けていくうえでなによりのエネルギーになっています。

人形劇なつみ座は、これからも人形たちの力を借りて、子どもたちの健やかな成長を願ひ、活動を続けていきたいと思ひます。

お詫びと訂正

『読書推進運動』第656号(2022年7月15日発行)の「優良読書グループの歩み」で掲載いたしました、安八町読書サークル協議会の推薦者名に、誤りがございました。

【誤】
推薦 岐卓県図書館協会

【正】
推薦 岐卓県読書推進運動協議会
ここに訂正し、ご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫び申し上げます。

(編集部)



2022 第76回 読書週間
この一冊に、ありがとう
10月27日～11月9日



